

猫の脂肪肝

猫の肝臓に過剰なトリグリセリドが蓄積する病気です。これにより重篤な胆汁うっ帯と肝機能不全が生じ、放置しておくとうつながる怖い病気です。「脂肪肝」というと成人病検診でよく耳にしてみえらると思ひます。ただ、「猫の脂肪肝」は生死の狭間にある重篤な疾患であることを認識してください。

[要因]

猫の肝細胞の 50% 以上に過剰なトリグリセリド(脂肪の代謝産物です)が蓄積した場合に発症し、重篤な胆汁うっ帯と肝機能不全を引き起こす疾患です。

原因不明な特発性の場合もありますが、多くは食欲不振を生じる疾患から続発してきます。食べないことにより体内のエネルギーやタンパク質が不足すると、生体は蓄えている脂肪をトリグリセリドに分解しエネルギーとして利用しようとし、肝臓はこのトリグリセリドを取り込み利用しようとし、肝臓での処理速度には限界があり、取り込みが過剰になりすぎると蓄積がどんどん進み、過剰蓄積を起こしてしまうのです。これが肝リピドーシスの状態です。要するに「飢餓による脂肪肝」の重症例と考へて下さい。また、肥満した猫での発症が多いとされていましたが、現在は一貫性はないとされています。

[診断]

診断は、血液検査と超音波検査によって行います。最終確定は肝臓のニードルバイオプシー(肝臓に細い針を刺し、組織を吸引し、細胞の検査を行う方法)ですが、超音波検査機器の進歩により、ニードルバイオプシーを必要としない場合がほとんどです。

[治療方法]

「飢餓による脂肪肝」を治すためには適切な栄養補給をし、代謝を正常に戻さなければなりません。適切な栄養補給を行えば、治癒します。ただし、長期戦です。長いケースでは、半年や1年間要する場合があります。根気のいる治療になりますから、飼い主の方の協力無しではできません。

栄養補給の原則は、腸からです。皆さんのイメージでは、「点滴によって」と思われるようですが、腸が活動できる状態であれば腸から行うのが原則です。それに、高カロリー点滴は、常に感染のリスクと隣り合わせです。血液への感染が起これば、敗血症になり死亡してしまいます。

一般的には、強制給餌から初めていきますが、長期に及ぶ場合は経鼻食道チューブや胃チューブをつけて、そこから流動食を流し込んで維持します。自主的に食べだすと、光が見えてきます。食欲が増えてくれば、ほぼ治癒しているとみなし、チューブを外すことができます。

根気はいりますが、治せる病気です。ただし、発見が遅い場合は、助からないケースが多いのも事実です。猫を飼われている方は、知っておいて欲しい病気です。食欲が低下してきたら早めに治療しましょう。そうすれば、「脂肪肝(肝リピドーシス)」にならずに済みますよ。